1994年5月15日発行　1975年2月28日第3種郵便物認可
毎月1回15日発行
定価／150円
年間購読料／2,000円（送料共）

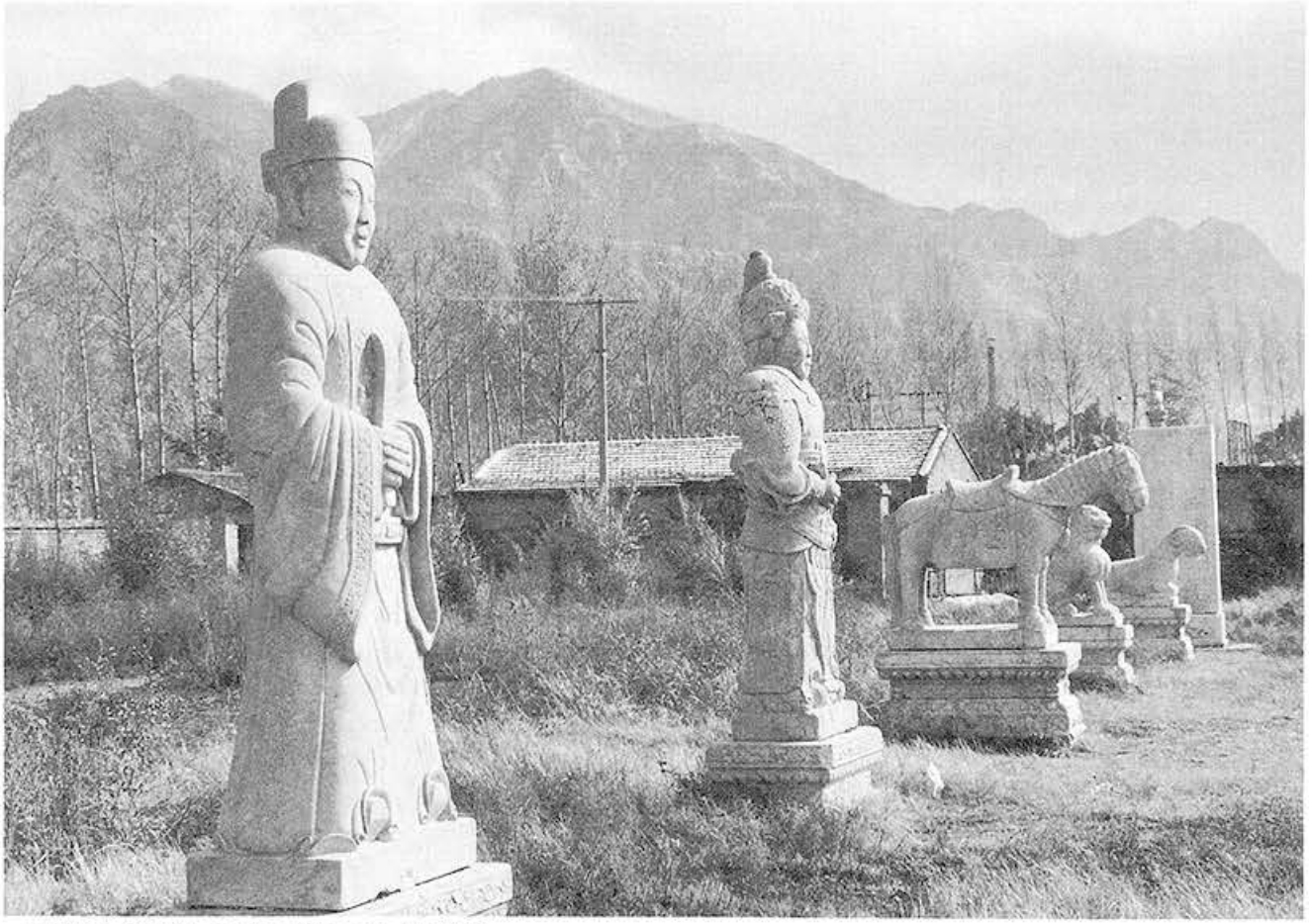
編集／緑の地球ネットワーク
Green Earth Network

大阪市港区市岡元町3丁目9-16　西建ビル（〒552）
Tel. 06-583-1719　Fax. 06-583-1739
郵便振替　00940-2-128465（大阪4-128465）
COM21 通巻320号　発行/COM企画室

緑の地球
GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

●ＧＥＮのこの１年 …… Ｐ２
●黄土高原の緑化協力 …… ｐ４
●夏のワーキングツアーのお誘い … Ｐ８



治水に力を尽くした清代の役人の墓（渾源県）

1994・5
26

こんなことがありました
～ＧＥＮのこの１年～

1993年４月11日の結成総会、シンポジウムから１年がたちました。思えばあの時にはまだボランティア貯金からの助成金の交付も決まっていなかったなぁ……。事務局にはもっと人がいたし……。などと考えると、この１年はＧＥＮにとって激動の（！）年だったといえるでしょう。まあ、活動を開始して２年や３年のあいだはどんどん変化して当たり前かもしれませんが、どこが激動？何があったの？という方のために、ＧＥＮのこの１年（1993年４月～1994年３月）をふりかえってみました。

１．国内での活動

1993年４月11日
【ＧＥＮ結成会員総会】
　アピオ大阪　参加者約60名
　会則、結成アピール、世話人の確認。
【正式発足記念シンポジウム】
　ピースおおさか　参加者約300名
　第１部　コンサート『緑のメッセージ』矢吹紫帆さん
　第２部　シンポジウム『なぜいまアジアの緑か？』槌田劭さん、石田紀郎さん、稲村昭南さん、深尾葉子さん
７月４日
【自然と親しむ会・神戸市立森林植物園】参加者約30名
９月13日
【学習会・よみがえる六甲山の緑】
　参加者約20名
　和田邦孝さん
10月３日
【自然と親しむ会・北山杉見学とみがき丸太体験】参加者約15名
10月14日
【夏の黄土高原ワーキングツアー報告会】参加者約30名
10月19日
【ネパール考察団報告会】
　参加者約30名
10月23日
【稲刈り体験】
　参加者５名
11月13日
【先住民族とともに祈りともに生きる！】参加者約40名
　堀越由美子さん
12月５日
【自然と親しむ会・Xmas用トピアリ作り】参加者約50名
　田中まさみさん
３月13日

◀4/11.　コンサート『緑のメッセージ』矢吹紫帆さんの華麗な演奏と衣装にみんなうっとり。

▶7/4.　「自然と親しむ会」神戸市立森林植物園で。この時、六甲山がハゲ山だった話をうかがってびっくり。

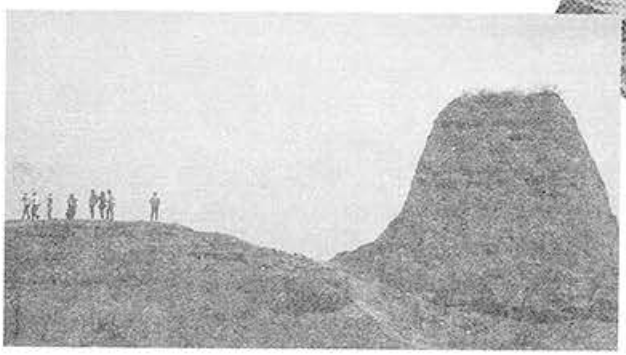
▲11/13.　「先住民族とともに祈り、ともに生きる！」堀越由美子さんを囲んで。

木の実や葉
トピアリ

▶12/5.　「自然と親しむ会・Xmas用トピアリ作り」田中まさみさんの指導で、ミニツリーのようなXmasデコレーションを作りました。

▲５月の黄土高原緑化協力団。おじさん、がんばる。

▼のろし台のある黄土高原の村。はるかかなたまで広がる浸食谷の風景。



◀ 万里の長城「宏賜堡」。八達嶺とは、ひと味違う。一歩向こうは、内蒙古自治区。

◀ 下寨北小学校。屋根は波打ち、倒壊寸前。GENからの労賃を使って新しい校舎が建てられる。

▶ 5学年が1つの教室で学ぶ。4人に1人は卒業前に通学をやめてしまう。

◀ 夏の黄土高原ワーキングツアー。17歳～72歳の幅広い年齢層の参加があった。この団の滞在中はよく雨が降ったが、そのあとぱったり降らなくなり、旱ばつになった。

▲ネパールのテラスフィールド。

▲ネパール。ランドスライド（土砂崩れ）のつめあとが残る。畑は、風から守るため石垣で囲まれている。

◀ 美しいが、荒涼とした風景。木は1本も見当たらない。

▶ 6月、GEN緑化考察団はサウル村で緑化協力に合意。雨期のネパールで厳しいトレッキングを体験した。

【自然と親しむ会・炭焼き体験】
　参加者1名
※この間、各地でパネル展開催。

2．海外での協力活動

この1年間に黄土高原に植えられた苗木は120万本余り、植えつけ面積は500haになります。

4月27日～5月7日

【第3次黄土高原緑化協力団】
　参加者10名
5月26日～7月25日
【ネパール緑化考察団】
　参加者6名
7月29日～8月11日
【黄土高原ワーキングツアー】
　参加者21名
12月11日～3月22日
【ネパール緑化考察団】
　参加者3名（滞在期間は個別に異なります）
3月24日～4月6日
【黄土高原ワーキングツアー】
　参加者12名＋現地参加者4名

3．助成金・緑化基金・物品の寄付

黄土高原での緑化協力に対して、6月に郵政省国際ボランティア貯金から525.7万円、11月に地球環境基金から400万円（後に600万円に増額）の助成が決まりました。地元関西では大阪コミュニティ財団から30万円、国際ソロプチミスト奈良4クラブから54万円余の助成をいただきました。これらにより、黄土高原でのＧＥＮの協力は大きく広がり、小学校付属果樹園の建設や、地球環境林の増設などが可能になりました。

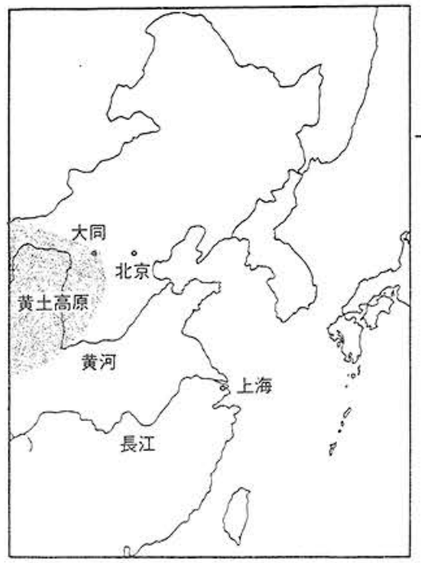
ＧＥＮの活動全体に対しては、富士火災ふれ愛クラブから20万円の助成をいただきました。ネパール・サウル村での協力や、ＧＥＮの運営に充てさせていただきました。

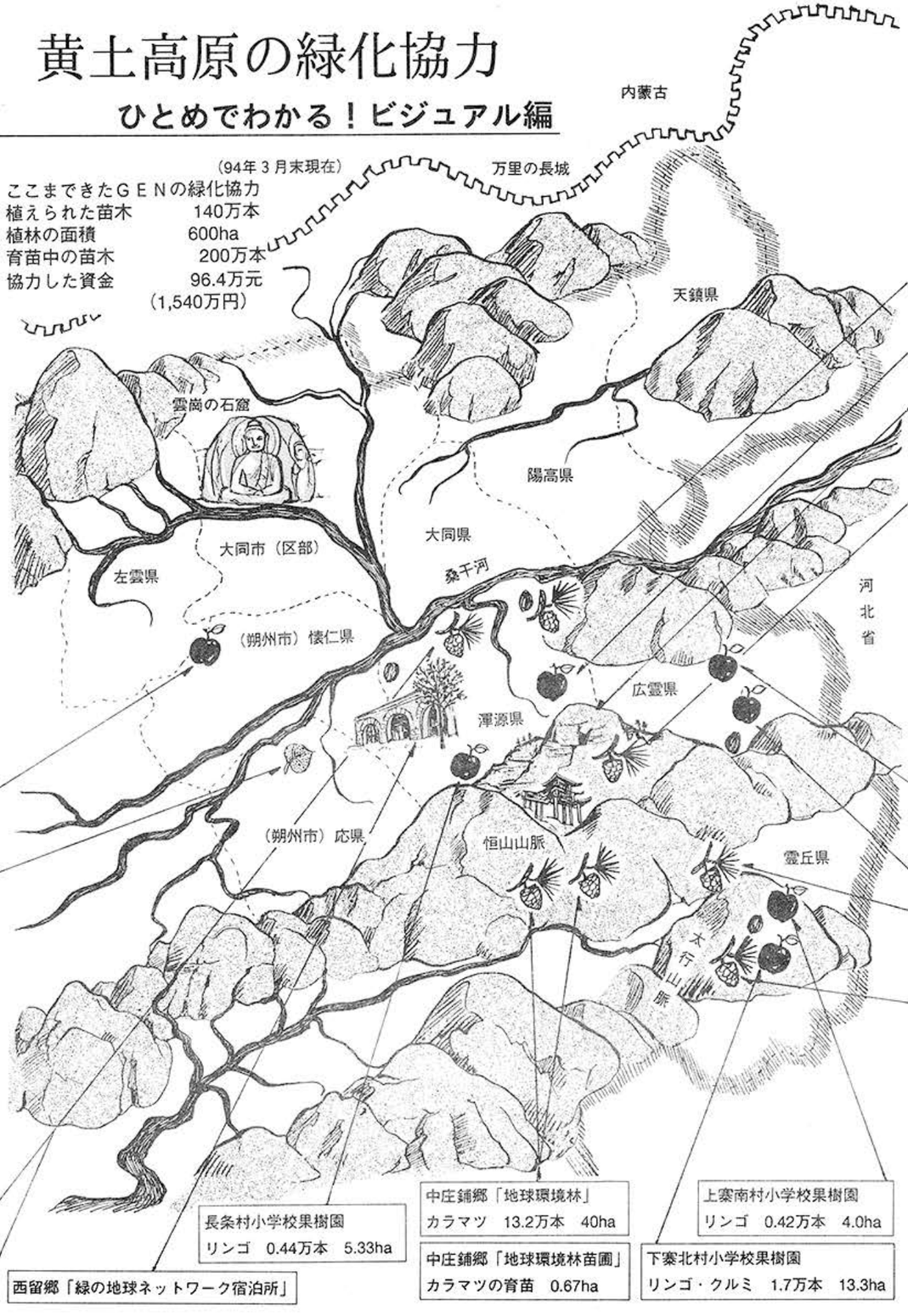
また、たくさんの方から、物品の寄付をいただきました。印刷機、マッキントッシュ、ファックスモデム、電話機、フロッピーディスク、恒山森林公園見本園用の種子、山西省へのおみやげにと文房具、等々。ここにあらためてお礼を申し上げます。

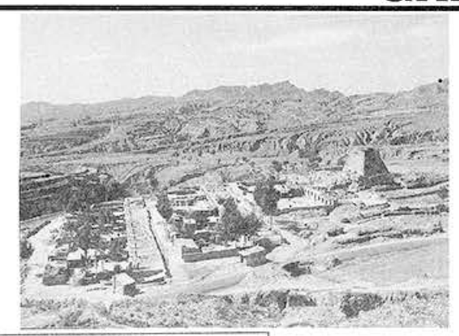
もちろん、おりにふれ寄せていただいている緑化基金、運営カンパ、そして何より会費が、ＧＥＮの活動を支える大切な資金です。今後ともよろしくお願いいたします。

黄土高原の緑化協力

ひとめでわかる！ビジュアル編







黄土高原の緑化協力は３年めを迎え、いよいよ本格化してきました。

地元の生活にできるだけ密着した緑化を、というのが私たちの願いですが、その特色も少しずつでています。

●順調に育つ山地のマツ

カラマツ（華北落葉松）、クロマツ（油松）、アカマツ（樟子松）を主体にした山地の緑化は、乾燥する山の南面と土壌のとくに薄いところさえ避ければ、まず問題はありません。渾源県や霊丘県で、これまで植えられたものが順調に育っていますし、30年もすれば立派な森林になります。

苗木は１本１円前後、１ha・3300本の植林が、労賃をいれても２万円という信じられないような数字です。効果があらわれるまで時間はかかりますが、生態環境・農業環境の改善にとって、本命のひとつでしょう。あと、ニセアカシア、ヤマナラシ、カバなど広葉樹を混ぜて、多様性のある植林を試みてみます。

●ひびく昨年の干ばつ

丘陵地のほうが、乾燥がきつく、より困難です。アカマツ、クロマツは一般に活着率70～80％ですが、93年の夏から秋にかけて干ばつが厳しかったため、アンズは大打撃をうけました。ポリフィルムでおおう（マルチ）だけでかなり改善されるでしょうが、工業製品は割高なのです。

大同県徐町郷では、昨年植えたマツ苗を、冬の入口で１本１本、土でおおっていました。乾燥と寒さから守るためです。40万本からの苗木をそうするのですから、たいへんな作業です。

広霊県平城郷で訪ねた村は、91年以降、300mm、190mm、140mmと降水量が急減しています。昨年は大阪の10分の１以下だったわけで、収穫も平年の３分の１以下（１人あたり年間所得は日本円で1,000円ほど）。１日

（6ページにつづく）

2食、薄いアワのおかゆと塩漬けの菜だけですが、それも底をついて、救済食糧で命をつなぐ状態です。

私が訪ねたのは車で行けるところで、その地域では比較的条件がよく、上の村はもっと困難だといいますから、かなりのところが飢餓線上にあるといってもいいのでしょう。

これが局地的・一時的な現象なのか、本格的な沙漠化の前兆なのか、たいへん気になるところです。緊急かつ絶対に植林が必要とされているのは、地元の人たちも痛感しています。その効果がすぐにはでないのが、なんともまだるっこしいのですが、できれば94年度からでも、ここで協力を実現したいと強く思いました。

●歓迎された小学校果樹園

困難な村の小学校の果樹園建設は、環境の修復と児童の就学保障を結びつけるものとして、たいへんな歓迎をうけました。幼児から老人まで、村ぐるみの歓迎の中で作業をしましたが、そのようすは前号の座談会にゆずります。

ところで、協力の効果はそれにとどまらないのです。霊丘県の下寨北村では、植林は村人の労働奉仕とし、労賃部分を費用の一部として校舎を建て替えることを決めました。

上寨南村では、同じようにして、川のそばの井戸を掘り広げ、ポンプをつけました。そこから丘の中腹の貯水池に水をあげ、果樹園の灌漑だけでなく、村への給水も始めます。てんびん棒で一日に何度も往復する水汲みの重労働が、これだけで軽減されるのです。

この県の青年団幹部は、たいへん有能かつまじめで、何度も足をはこんで村人と相談し、このようなシステムをつくりました。(果樹園の管理方式にも感心させられましたが、紙面の関係で紹介は次号以降にします)。

中国の沿海部や大都市の経済発展はめざましく、内陸部との格差はすさまじいものがあります。そのようななかでも、若ものは、自分たちがおかれた条件のなかで、新しいことへ挑戦しようとしています。私たちの協力が、彼らが自分たちの力をためす場ともなっていることに、私はもうひとつの意味をみつけた思いです。　(高見)

アイヌモシリでのナショナルトラスト『アイヌ・シサム友好の森』構想の準備すすむ

昨年夏から予備調査・検討が始まった北海道・アイヌモシリでの緑化・森林回復の協力活動は、『緑の地球』19号より報告してきましたが、現地と、他のいくつかの団体の協力も得て少しずつ具体化してきました。5月8日には、3回目の準備会が名古屋の『アイヌ民族の歴史と現在を考える会』のご協力のもとに名古屋で開かれました。次回は大阪で6月25日に開き、そこで最終的な決定をするはこびとなりました。

今年の夏から、北海道・平取町二風谷の周辺でのナショナルトラストによる私有地の買い取りや、地主との保全契約による森林保全・回復、そのための募金活動、学習会や現地での宿泊研修会（ワーキングツアー）などを始めます。

次回で詳しく案内しますが、当面次の行事を予定しています。

●講演会　6月25日（土）夜
　新井幹子「わが父、貝澤正を語る」
●宿泊研修会（ワーキングツアー）
　8月18日（木）～23日（火）

二風谷現地で、18日昼過ぎに集合し23日昼前に解散の5泊6日で現地費用1人5万円程度。募集人数約10人。

参加希望者は日程をあけて準備してください。詳しくは事務局に問い合わせてください。（世話人・武田繁典）

国際ソロプチミスト奈良4クラブ緑化協力訪中団派遣

黄土高原における緑化協力を全会員の力でバックアップされている国際ソロプチミスト奈良4クラブが、5月29日から渾源県に独自の協力団（安田順恵団長）を派遣されることになりました。20数名のうち、中国ははじめてという団員がほとんどですので、渾源県の長条村小学校果樹園での記念植樹のあと、北岳恒山・懸空寺や雲崗の石窟を訪ね、そのあと北京、西安、蘇州、上海などを回って、6月6日帰国の予定です。

緑化への協力とあわせて、北京で子どもむけの本をそろえ、「ソロプチミスト文庫」などを村の小学校に贈られる予定です。子どもたちにきっと大歓迎されることでしょう。

国際ソロプチミスト奈良4クラブは社会奉仕や環境改善などに熱心にとりくんできた女性団体ですが、昨年春から黄土高原緑化協力についての報告会や懇談会を数回とりくみ、この協力活動を会員全員のものにしてこられました。現地訪問は、この活動の大きな跳躍点になることでしょう。

現地の様子をビデオで 黄土高原ワーキングツアー報告会

春の黄土高原ワーキングツアーの報告会が、4月25日、弁天町市民学習センターで行われました。ワーキングツアーの参加者や会員、新聞の案内で見た人など40人近くが集まりました。

西留郷のヤオトン建設の地鎮祭やレンガ積み、霊丘県での村をあげての歓迎、子どもたちといっしょに小学校付属果樹園で苗木を植える様子などをツアー参加者の重光加代子さんがビデオを使って解説してくれました。印象的だったのはやはり子どもたちの姿で、小学校の果樹園でコップにくんだ水を植えたばかりの苗木にかけたり、教室で精一杯に歓迎の歌を歌ってくれたり、生まれて初めてバスに乗って大喜びする様子はほほえましく、感動的でもありました。

そのあと高見世話人から現地の様子や今までの協力内容の説明があり、参加者からの質問などがありました。

協力ポイントは急激に増えたわけですが、これからも地元と密着した、顔の見える協力関係をしっかり築き上げていくことが大切だと思いました。

ネパール・ムスタンに緑を！

佐野さん再び現地へ

前号で「次号をお楽しみに」と書いたネパールの記事ですが、佐野さんは相変わらず超多忙のまま5月7日に再度ネパールに向けて発ってしまったので、記事がありません。ごめんなさい。かわりに、5月12日付けでポカラからきた手紙の引用をまじえて現状をお知らせします。

明朝（5月13日）サウルに向けての出発を前にして、恐ろしいほどの忙しさ。しかも今回は総勢10人ほどの道行きとなり、チームワークも充分考えなければなりません。

サウル村では、苗場はすでに完成していて、仕事場兼宿泊所もまもなく完成の運びです。今回の訪問は育苗開始に立ち会うと同時に、農具や生活用品を運び込むためでもあります。自給自足のサウル村では、何も手に入りません。スコップなどの農具から家具、食器までカトマンドゥやポカラで買い入れ、現地まで運ぶのです。「総勢10人」はそのため。

日本人スタッフ3人の見通しができたのが大朗報。ただ、今年は、あと何回でも、2ヵ月は来てほしいというのが、H・D・ツラチャンの強い要請。これには応えなければなりません。

現在佐野さんといっしょに現地にいる池迫君、去年の雨期を経験している“ハイパワー”高力さんが強い味方となってくれそうです。ツラチャンさんはサウル村政府との仲立ちとなってくれた人で、GENのよき協力者です。今回佐野さんの滞在予定は1ヵ月。その間に育苗が始まり、宿泊所も整いそうです。ムスタンに緑を！の第1歩が、踏み出されました。

河内長野市民まつりでパネル展示

5月4日、心配された雨も前夜にすっかりあがり、第4回河内長野市民まつりは始まりました。我が河内長野市日中友好協会は植樹写真の展示と中国紹介のビデオ上映、そして中国茶の点前を行いました。本格的な烏龍茶のお点前に、市民の皆さんは大変喜ばれ、パネルにも熱心に見入っておられ、特に黄土高原の地図パネルにはことのほか関心を示されて募金にも大変ご協力をいただきました。今後も機会があれば、こういう活動をしたいと思いました。（村蒔義正）

編集部注：河内長野市民まつりでの募金額は、8千円余にのぼりました。ありがとうございました。

使用済テレカ回収はじめます

使用済のテレフォンカード、ハイウェイカード等の磁気カードが1枚10～20円になります。マツ類の小苗だと1本約1円ですから、なんと使用済のテレカで苗木が10～20本！お友達にも声をかけて、使用済カードを集めてお送り下さい。

また、現在空き缶募金箱を企画中ですので、準備ができましたらそちらの方もよろしくお願いします。

山西省の自然

石原忠一
（92年緑化協力団団長）

（20）森林被覆率

'94年4月18日が、大阪市と上海市の友好提携20周年の記念日で、上海市で西尾正也大坂市長をはじめ、国交回復前から運動を続けて来た、大阪府日中友好協会をはじめ各界の代表者850余名の日本人と、黄菊上海市人民政府市長はじめ、対外友好協会や大阪とゆかりのあるひとびとが、一堂に会して盛大な祝賀会がもたれました。

このあと、西安市での文化交流の団として、古都の文物にふれることができました。

中国をはじめて統一した、秦始皇(BC259～210)の墳墓の東1500mの地下約5mのところから、1974年3月発見され、今や世界の8不思議に数えられて観光客に一番人気のある、8000体の兵馬俑、素焼きの像（テラコッタ・アーミー）の出土状況を参観しました。巨大な地下廊は、支柱も梁も多量の木材が使われていたのか、戦火に焼かれ、壊滅したあと、黄塵万丈の末黄土の下にかくされていました。

また、1980年12月、皇帝の使ったものを模した、青銅の古代戦車の目をみはるような金属文化の粋が出土しました。

これらの土器や金属の精錬に莫大な量の木材が薪炭として消費されたことでしょう。

この春高見君が譲渡してもらって来た、山西省地方志編纂委員会による、山西通志第9巻＝林業志、'92年7月によりますと、山西省の過去の森林による緑被率が、秦以前は50%、唐(618～907)宋代40%、元（1271～1368）代30%、清（1644～1911）代10%以下、そして中華人民共和国成立時1949年は実に2.4%、37万haと報告されています。緑の回復がどんなに急を要するかをうったえています。

芦芽山自然保護区。往時の緑豊かな山西省をしのばせる。

ヤオトンに泊まろう！

黄土高原夏のワーキングツアーのお誘い

～専門家調査団も派遣

黄土高原へ夏のワーキングツアーを派遣します。大同周辺に広がるＧＥＮの緑化協力プロジェクトを訪ね、小学校付属果樹園や苗畑などでせいいっぱい労働します。春のワーキングツアーが起工した渾源県西留郷のヤオトン（窰洞）が完成しますので、ここに泊まって農村の一日をまるごと体験し、村の人たちとの交流を深めます。

今回は往復とも飛行機を使いますが、経費を切りつめるため成田からの出発になります。

▼主な活動

大同周辺の数か所で、山地や丘陵、小学校付属果樹園、苗圃など、共同ですすむ緑化事業に参加し、いっしょに労働します。

北岳恒山・懸空寺、雲崗の石窟、万里の長城（宏賜堡）などの観光もおこないます。

通り過ぎるだけでは絶対にあじわえない、地元の人たちとの交流は、ＧＥＮのワーキングツアーならではです。

▼スケジュール

7月22日　成田空港出発。
23日～29日　大同周辺で緑化活動に参加。あわせて観光も。
30日　北京市内観光と買い物。
31日　北京を発って成田へ。

（航空便の都合で日程変更の可能性があります）

▼定員と締切り

15名。最終締切りは6月25日ですが定員にたっししだいに締め切りますので、申込みはお早めに。

▼費用

18万円（交通費・宿泊費・食費・ビザ手数料・ＧＥＮ会費1年分が含まれます。成田までの交通費は含まれません）。会員と学生は少し安くなりますのでお問い合わせください。

▼受入れ団体

大同市青年連合会。

▼申込み

ＧＥＮの事務所に申込み用紙を準備しています。申込金3万円を添えて申し込んでください

専門家の団について

黄土高原の植生、恒山森林公園の見本園建設などの調査と交流のため、植物生態・林業などの専門家のかたたちの調査団を現地に派遣する準備をすすめています。

立花吉茂さん（花園大学教授・大阪市立咲くやこの花館技術顧問）、遠田宏さん（東北大学付属植物園園長）が参加を予定されており、8月4日ごろから8日間ほどの予定です。

黄土高原における緑化協力は、さまざまな要素を含む遠大な試みです。その基礎をしっかり固めるために、各方面の知識と技術をもった専門家のみなさんが、ぜひ参加してくださるようお願いいたします。

くわしいことは、ＧＥＮの事務所までお問い合わせください。

ヤオトンの基礎工事のようす（春のワーキングツアー）。夏は、ここに宿泊します。

初夏の北京から～

竹田昭さんからの手紙

いま北京週報社でしごとをし、春の黄土高原ワーキングツアーを同行取材した竹田昭さんから手紙がきました。

迎春花　春を色どる　花々を
ひきつれひき連れいまはライラック
竹田　昭

あんなに花に包まれた北京もいまは緑深く初夏の趣きです。

3月末から4月にかけ、日本からの植林ワーキングツアーに合流して黄土高原に行き、現地の純朴な小学生とスコップを握り頑張りました。苗木を植える穴をたくさん掘りました。

日本にやってくる黄砂が少なくなれば、私のことを思い出していただきたいと思います。

そのときのレポートが本誌（「北京週報」18号）の最後の方に遠慮がちに載っています。近況報告かたがた日頃のご無沙汰に代えさせていただきたく同封申し上げます。

1994.5.5 北京にて

生き延びろ／黄土の丘は／干からびて／かぼそき苗木／いたいたしくも／願いこめ／黄土の里に／植えし樹ぞ／ふき出る汗は／根元に落せ／笑い声／黄土の里に／こだまして／リンゴの苗木／育つ夢見る／巻き上る／黄土の丘の／この風の／遥に遠く／海を渡るや

訃報

～松沢由夫さん亡くなる

準備会発足時からの熱心な会員で、日中友好運動に長くとりくんでこられた松沢由夫さん（大阪市阿倍野区）が、3月18日に亡くなられました。「緑の地球」21号でお知らせしたように、松沢さんは、その熱心な活動にたいして、中国林学会の栄誉会員に推挙され、2月に会員証が届いたところでした。ご遺族から、ひきつづき黄土高原の緑化に役立てるようご香典の一部を寄贈していただきました。松沢由夫さん、安らかにお眠りください。

編集後記

先日、家の本をかなり処分しました。活字中毒の上買いこんで手元に置かないと気がすまないので部屋中本だらけなのですが、日本人1人あたりの紙の消費量は世界一ではなかったか思うと、少し罪悪感を覚えてしまいます。せめて古本屋さんでリサイクルしてもらおう。　（東川）